

今月の法話

一、「大黒天の秘密と縁起」 二、「吉野からみる日本の歴史」

一、大黒天の秘密と縁起

本年は昨年の靈視アドバイスでお話ししましたが、まさに混沌とした世となり、一時も気の抜けない時代となりました。戦争をはじめ、自然災害、そして政治経済、まさに日々が目まぐるしく変化します。この年は徳を積めば積むほど力を表し、悪しきことは表に示され、まさに試練の年なのです。

五月は端午の節句です。もともと五月五日は子供の日というよりも厄除けの日でありました。古代中国では奇数が並ぶことは縁起が悪いとされ、邪気を払うために祈禱しました。それが日本に伝わり、特に跡継ぎの男性にまつわる厄払いの日とされました。江戸時代、武家の跡継ぎとして鎧兜、刀などを飾り、繁栄を祈り、また鯉のぼりを飾り、柏餅やちまきを食しました。そして家の安泰を祈願したのです。口伝。

節句には大黒天は祀りませんが、大黒天が軍神であり、財福神であるため無関係ではありません。過去に大黒天を祀り、天下を収めた武人がいます。豊臣秀吉です。三面大黒天を祀った秀吉は、天下統一をし、大きな富を得たのです。正面に大黒天、左に弁財天、右に毘沙門天を示し、六本の手を持つ大黒様です。もともと大黒天はマハーカールアと言われ、シヴァ神の変幻とされ、マハーは「大」、カールアは「黒」という意味です。シヴァ神とは、ヒンズー教の神であり、破壊と再生を司る力があります。その姿が中国に渡り、戦國神、軍神として信仰されました。日本に渡り、大国主命と重なったことで財福の神として全国に広まりました。狩衣かりぎぬを着て大きな袋を背負った姿は大国主命に由来するものでしょう。ニコニコと笑顔を振る舞う姿は、日本独自の大黒天の姿とされます。

さて、大黒天は破壊と恐怖の戦國神。その力を見込んだ毘盧遮那仏は、荼枳尼天を調伏させるためにその姿を借ります。荼吉尼は女神カリーの使いともされ、人を喰らい悪逆を尽くす悪神であったがこれによって仏教に帰依させられました。この荼枳尼天の眷属はジャッカルでした。しかし、日本には生息していないため、似ている狐を眷属としたのです。日本では稲荷信仰と融合し、商売開運、出世の利益を得る神となりましたが、お稲荷さんといえ狐というほど有名なお姿です。また、空海が京都の東寺を建てる時に、伏見稲荷を鎮守として祀り、稲荷信仰は仏教と深く縁付いているのです。

日本の神社仏閣の多くに大黒天が祀られ、その伽藍と信者を守っているのです。その始まりは天台宗の最澄と言われています。私は大黒天を最初に勧請しお祀りしたのです。大黒天はこのように私に言われました。「私を祀って祈れ、さすれば道が開ける」と。まさにこれが縁の始まりでした。それから後に観音様が降りられたのです。

当山では大黒天を供養するのに、黒豆と酒を混ぜた黒豆酒を用いた行水法を行います。ぜひ大黒天の縁起を受けてくださいませ。

○縁起を上げる基本

清め塩の置き方。玄関は外に置く。トイレはタンクや水回りのところには置かない。トイレットペーパーは見えるところに置かない。蓋を閉める。ぬいぐるみや写真もダメです。常に清潔。これは弁財天も共通。造花は玄関に置かない。写真もダメです。鏡の位置を確認。下駄箱の臭いに注意。トイレも同じ。口伝（邪気や悪鬼を払う道具）

金運のない人は、大黒天、弁財天を祈ると上がります。祈り方はお祭りの日に教えます。

二、吉野からみる日本の歴史

奈良県の中央に位置する吉野は、修験の聖地として現在も多くの信仰を集めています。仏教と山岳信仰は切っても切れない関係です。山岳修行の聖地としての「吉野」は、日本の歴史においても度々登場し、非常に特異な立ち位置の地域でもあります。吉野は急峻な山々に囲まれた地であり、まさに神々の棲まう地として古くから信仰の対象であったのです。そして、吉野の山々は遠く熊野の地まで続く神域でもあります。その意味では、吉野は現世と常世の狭間に位置したのではないのでしょうか。だからこそ修行者はこぞって吉野、そして象徴的な山である大峯山に集うのかもしれない。

その歴史は斉明天皇が吉野宮よしのみやを造った七世紀にまで遡ります。天智天皇の治世で弟の大海人皇子は出家して吉野宮に入りました。しかし、その半年後に天智天皇は崩御、大海人皇子は出兵し大友皇子を破り天武天皇

皇として即位します（壬申の乱）。天武天皇の後に即位した持統天皇は三十四回も吉野に行幸したと言われます。その後、文武、元正、聖武天皇も吉野宮に行幸するなど、吉野の地は重んじられてきました。

そして、修験を語るうえで押さえておかねばならないのが役行者です。修験道の開祖として信仰を集めますが、極めて謎多き人物です。『日本霊異記』に曰く、孔雀王法を修めて鬼神を従えた役行者が、葛城山

にはんりよういき

さみんごしんみん

（金剛山）と大峯山とに橋をかけて通おうとしました。しかし、葛城山の神である一言主命により天皇へ役行者は世を乱そうとしていると神託が下ります。その結果、役行者は母親を人質に取られて捕らえられてしまったのです。役行者は伊豆へと流されるも、夜ごとに富士山へと赴き修行を重ね、ついに仙人となります。大宝元年の正月には天を駆けていきました。役行者は修行者として大峯へと渡ろうとしていたことから、大峯山が昔より行場として選ばれていたことがわかります。しかし、都が飛鳥から平城京へ遷り、吉野は次第にその存在感を薄めていきます。

しょうぼう

そんな中で、修験道中興の祖であり、山岳修行を復活させた人物が理源大師聖宝であります。聖宝は、空海の弟である真雅のもとで出家、東大寺で法相・華嚴などを学び、醍醐寺を開き、山岳霊場を宗教実践の場を組織化していきます。そして吉野においては、衰退していた修験の場に堂を建立し、如意輪観音・多聞天王・金剛蔵王菩薩像を造り、吉野川周辺に船場を設けるなどして修行環境を整備したと伝えられます。

さらに鎌倉時代末期に、また歴史の転換点が訪れます。足利尊氏との政争に敗れた後醍醐天皇は、吉野に南朝を打ち立てました。なぜ吉野が選ばれたのか。まず護良親王が挙兵した際に頼ったのが金峯山寺であったのです。聖宝による組織整備以降、着々と築かれてきた寺院体系は非常に強力なもので、武家勢力も簡単には手出しできなかったのでしょうか。加えて先述の通り、吉野宮など、かつて天武天皇が雌伏の時を耐えた地でもあり、天皇家とも非常に縁深い土地柄であったこともありまます。そして、後醍醐天皇自身も仏教に深く帰依し、特に如意輪寺の観音様を念持仏として拝まれていたそうです。南朝は最終的に統一されましたが、明治以降は南朝を正統とみなしています。

このように歴史の裏舞台とも言える吉野は、明治時代に再び苦境に立たされます。それが神仏分離と修験道廃止令です。金峯山寺は廃寺とされましたが、蔵王堂は金峯神社口ノ宮、山上ヶ岳の蔵王堂は奥ノ宮と、名称を変えて存続しました。その後には修験道の再興が図られ、金峯山寺は天台宗の寺院として復興しました。この際に山上の蔵王堂は大峯山寺として金峯山寺から分離しました。昭和には金峯山修験本宗と改め、その総本山として現在に至っています。また、女人禁制については太政官布告で神社仏閣の女人結界は法令上廃止され、富士山や大山、高野山など、ほとんどの霊場が開かれました。しかし、大峯山ではその後も継続され、現地の住民が霊場の秩序を守ろうと必死の抵抗を見せました。強行に登ろうとする女性も少なからず現れましたが、現在に至るまで女人結界が維持されています。

仏教は奈良時代において、鎮護国家を目指し、国家仏教として人々の安寧を祈りました。一方で、大衆のための仏教は行基菩薩などの草の根的な聖によって補われてきました。吉野は朝廷から離れた地で、山岳修行を主とする僧侶や山伏とともに大衆の信仰が熟成された土地です。このような場所はかつて全国にありましたが、それを明確な形として残す数少ない土地でしょう。現在では全国から大峯山へと登る信仰者が跡を絶ちません。今は「や通信インフラの発達によって世界が目まぐるしく変化し、膨大な情報に私たちは日々踊らされています。そのような時代だからこそ、信仰を生活の一つの寄る辺として、地に根を張り生きることが肝心です。吉野の深い歴史と信仰から本当の幸福への道標を学べるのではないのでしょうか。合掌

南無日月光妙法蓮華經

*五月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（五月六日～六月六日）一年通してのラッキーカラーは黄色です。

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

五月のラッキーカラー

金 赤 黄 青

暗剣殺 なし

五黄殺

なし

【お知らせ】

- ① 六月の勉強会の日程 六月二日（火）六日（土）七日（日）正午より 横浜教会 六月二十日（土）午後二時より 横須賀支部 六月二十一日（日）午後二時より 小田原支部 六月二十八日（日）午後二時より
- ② 大黒祭・五月二十四日（日）午前十時半より厳修いたします。福德円満、財運向上の法要です。ぜひご祈願くださいませ。
- ③ 弁財天祭・六月十七日（水）午前十時より 財福、芸術、弁舌、除災などのご利益をもつ辨財天様の護摩法を行います。詳細は別紙にてご確認ください。
- ④ 仏像彫刻教室 五月十日（日）六月二十一日（日）正午より 絵画教室 六月七日（日）勉強会后 本堂にて ※見学・体験もできますのでご興味のある方はぜひお越しくださいませ。
- ⑤ 滝行の予定・五月十日・三十一日（日）六月二十一日（日）塩川滝 七時集合 六月二十八日（日）夕日の滝 六時集合
- ⑥ 馬頭観音開眼供養 五月三十一日（日）十二時半より ※ご参加希望の方は申し出てくださいませ